

2026～2028年度事業戦略

■ ミッション

①【地域の文化拠点として、文化芸術における次世代のスタートアップを支援する】

目まぐるしく変化する世界情勢、ますます拡大していく格差社会、生きづらさを抱える人々の増加など、次世代を担う若者の前には多くの困難が待ち構えている。また、福島県は若者の県外流出率がきわめて高く、若者の首都圏への流出が大きな課題となっている。

若者が自らの望む未来を実現でき、誰もが心豊かで多様性に満ちた生活を送れるよう、当館が地域の文化拠点として、「なにかやりたい、始めたい」という気持ちを形にできるスタートアップ支援を行う。時代によって変化する社会通念に呼応しながら、新しいアイデアや技術を導入し、本市ならではの持続可能なモデルとなる、スタートアップ支援を行うことで、「文化芸術のあふれるまち」を実現する。

②【文化芸術を通じた多様な連携と協働を強化し、地域の活性化を推進する】

少子高齢化、公共施設の老朽化と減少、交通インフラの弱体化など、地域の様々な課題がある中、誰一人取り残さないために、文化芸術を通じて地域社会の絆の維持および強化を図る支援が必要である。

地域に潤いと活力を生み出すため、当館単独では成し得ない、効果的・効率的で持続可能な支援を実現し、多様な人材や諸機関、社会福祉団体、企業などとの連携による共創の強化と、地域コミュニティの再生・構築や育児・教育への支援などを推進する。

③【あらゆる人々の相互理解を促進し、心豊かな生活に寄与するために文化芸術を届ける】

文化芸術は市民生活にとって水道、電気、ガスと同様に、健康で文化的な生活を送る上で必要不可欠な「心のライフライン」である。災害や疫病などが毎年のように市民生活を脅かす現代において、文化芸術の重要性は一層高まっている。

年齢、国籍、障がいの有無、性差、居住地など、様々な社会的・経済的状況に関わらず、あらゆる人々が互いに認め合い、本市での暮らしに希望と誇りを感じ、文化的で創造的な日々を送れるよう、当館が有する人的資源と機能を最大限に活用する。

■ 施策

施策1 市民が自らの手で理想の未来を実現できるよう当館スタッフの知識や経験を活かしたスタートアップ支援を行う

- ・何かやりたい、始めたいという市民の声を聞き、文化芸術にアクセスできる場をつくり、市民による文化芸術活動へのスタートアップ支援を行う
- ・市民の創造力を養い、人間的な成長につながる表現の場を創出する
- ・市民が創造体験できる事業を実施することにより、実演芸術家の発掘や舞台技術者等の育成につなげる
- ・地域コーディネーターやカメラマン・デザイナー・制作補助等、次世代の文化芸術を担う人材を育む
- ・高校や市内公共施設に当館スタッフが講師として出向き、これまで培った知識や経験を市民に届け、市民が主体となる文化芸術活動の可能性を拡げる
- ・中学校の職場体験、大学や専門学校のインターンシップ等を幅広く受け入れる
- ・貸館利用者への適切な運営・舞台サポートにより、文化芸術活動を支援する

施策2 ジャンルやカテゴリーに捉われず、連携・協調を図り、文化芸術の輪を広げる

- ・地域コミュニティや地元事業者、各種団体や施設、市の他部署と連携し、文化芸術はもとより、様々な文化(食、スポーツ、観光等)との輪を広げる事業を展開することで、市民が心豊かな生活を送る一端を担う
- ・子育て支援団体をはじめ関係団体等と連携し、文化芸術を活用した子育て支援に関する事業に取り組む
- ・教育機関等と協調を図り、青少年の文化芸術活動を支援する
- ・外部機関等と連携して事業の分析と検証を行い、文化芸術に対する市民のニーズを把握する
- ・ネーミングライツ・パートナーを含めた企業等と連携し、より広く市民に文化芸術を届ける

■ 基本方針

いわきアリオスは文化芸術を通して、様々な課題を抱える地域コミュニティに寄り添い、次世代を担う子どもたちの未来を明るく照らし、いわき市で暮らす全ての人々が互いに認め合える、心豊かな生活を送れるよう、市民生活を支える「生活支援型アートセンター」である。

前期事業戦略では、これまで培ってきた文化団体や企業等との連携を深めることで、地域コミュニティの活性化、将来の本市を担う若者の支援や育成に力を注いできた。

新事業戦略では、支援や育成の先に、市民が文化芸術を通じて、自らの手で理想の未来を実現できる事業を展開していく。

度重なる自然災害やコロナ禍を経て、人々の生活様式や生き方は大きく変わってきた。そのため、開館20周年という大きな節目に向けて、今一度、文化芸術を軸に集い、学び、遊ぶ人々と、新しい時代に合った文化芸術の在り方を考える場を創出する。そのうえで、関係各所とのさらなる連携・協働を図りながら、当館スタッフの知識や経験を最大限に活かし、地域の文化拠点として次世代のスタートアップ支援を行う。その結果、この新事業戦略が終わる頃には、市民の手による新しい文化芸術が、当館を起点に本市の中であふれている未来を目指す。

また、当館は開館から15年以上が経過したが、新しく本市に転入してきた方や、市外から戻ってきた方の中には、まだ当館の存在を知らない方も多くいる。そして、劇場や文化芸術に対してハードルを感じている市民の声も聞こえている。それらの市民に向けて、より広く情報を発信しつつ、様々な垣根を取り除くことで、当館が誰一人取り残さない、あらゆる人々にとっての「新しい広場」となることを目指す。

以上の基本方針に基づき、次の4つの施策を柱に事業を展開していく。

施策3 あらゆる垣根を取り除き、だれもが文化芸術に触れられる機会をつくる

- ・文化芸術を通して人々が集い、楽しみ、遊ぶ中に“学び”を見出し、多様な世界に触れ国際文化交流の円滑化を図れるような、工夫を凝らしたワークショップや鑑賞体験を提供する
- ・子どもや 親子が気兼ねなく鑑賞・体験し、楽しめるような環境を整え、プログラムを提供する
- ・館内や当館周辺に賑わいを生み、コア層からライト層まで誰もが気軽に立ち寄りやすい、地域に開かれた場をつくる
- ・様々な事情により当館に足を運ぶことが難しい子どもや市民へ実演芸術を届けるアウトリーチ事業を展開し、市内全域で実演芸術の普及と理解を促進することで、市民の豊かな情操を育む
- ・鑑賞支援サービスの導入や研修等によりスタッフの意識のアップデートを行い、あらゆる人が安心して鑑賞できる体制をつくる
- ・国籍・文化の違いを尊重し、障がいのある方の立場に立った柔軟な対応を行う
- ・当館の魅力を知ってもらうために、様々なツールを活用して情報発信を行う

施策4 質の高い実演芸術に出会い、世界へ繋がる場をつくる

- ・ホール・劇場のスペックを活かした質の高い鑑賞事業の開催
- ・優れた芸術団体やカンパニーとの共同主催による鑑賞メニューの充実
- ・共催や貸館による、ポピュラー音楽など豊富なジャンルの鑑賞メニューの継続
- ・主催・共催・共同主催の鑑賞事業に話題性を生み出し、より多くの市民に訴求することで文化芸術の興味関心を高める